

指定(介護予防)訪問リハビリテーション
重要事項説明書

姫路医療生活協同組合
ヘルスコープあぼし診療所
訪問リハビリテーション

1. 法人の概要

法人名	姫路医療生活協同組合（創立1974年8月）
所在地	姫路市双葉町10番地
連絡部署	姫路医療生活協同組合 本部
	電話番号 079-285-3398
	FAX番号 079-284-2647
ホームページアドレス	https://www.himeji-mcoop.or.jp
法人種別	協同組合
代表者	代表理事 西村 哲範
法人が行っている他の業務	病院 診療所 歯科 居宅療養管理指導 居宅介護支援 訪問介護（総合事業含む）（介護予防）訪問看護 通所介護（総合事業含む）（介護予防）通所リハビリ （介護予防）訪問入浴 （介護予防）福祉用具貸与・販売 定期巡回随時対応型訪問介護看護 （介護予防）小規模多機能型居宅介護 看護小規模多機能型居宅介護 （介護予防）認知症対応型共同生活介護 地域包括支援センター

2. 事業所の概要

事業所の名称	ヘルスコープあぼし診療所
所在地	姫路市網干区和久2-2
電話番号	079-272-8053
FAX番号	079-272-8051
指定事業所番号	2814008468
管理者氏名	宗實 英行
開設年月日	平成27年6月1日
事業実施地域	姫路市（ただし、家島町、安富陽、夢前町を除く）、太子町、たつの市（ただし、新宮町を除く）
営業日	祝日を除く月～土（8/15、12/30～1/3を除く）
営業時間	月～金（9：00～17：00） 土（9：00～13：00）

3.従業員の員数及び職務内容

職種	職員数	職務内容
管理者 (医師)	1名	従業員の管理及び事業の利用の申し込みに係る調整、業務の実施状況の把握その他の管理を一元的に行います。 また、主治医の意見をもとに、計画の作成に必要な情報提供及びリハビリ方法についての指導、助言や利用者・家族に対する療養上必要な事項の指導、助言を行います。
理学療法士 作業療法士 言語聴覚士	法定数以上	医師の指示・(介護予防)訪問リハビリテーション計画に基づき居宅を訪問し、利用者に対しサービス提供を行います。

※身分証明書を携行し、初回訪問時及び利用者又はその家族から求められたときは提示します

4.理念と基本方針

姫路医療生活協同組合 理念

その人らしく、気持ちよく生きる

姫路医療生協 訪問リハビリテーション 理念

一人ひとりを大切に その人らしさをサポートします
＜基本方針＞

- ・わたしたちは、医療生協の基本理念である「いのちの章典」に則り、尊厳ある訪問リハビリサービスを行います。
- ・わたしたちは、参加と共同の視点に立ち、地域・ボランティアの方々と協力・共同し、利用者が住みなれた地域で安心して、その人らしく暮らせるよう訪問リハビリサービスを提供します。
- ・介護事業利用委員会等の活動を通して、利用者のご意見・要望を反映し、サービスに対する自己評価を行い、資質向上に努めます。

5.事業の目的及び運営方針

(1) 事業の目的

加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理その他の医療を要する者等について、これらの者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、法令遵守と質の向上を目指し、福祉の増進を図る事を目的とします。

(2) 運営方針

- ①リハビリテーションは「心身機能」、「活動」、「参加」などの生活機能の維持・向上を図ることを基本方針とします。事業所の従業員は、要介護状態となった場合においても、その利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力の応じ自立した日常生活を営むことができるよう、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、その他必要なリハビリテーションを行い、心身・生活機能の維持・向上を図るものとします。
- ②主治医が認めた通院が困難な要介護者で、指定（介護予防）訪問リハビリテーションの提供にあたって、ヘルスコープあぼし診療所の医師の指示に基づき、リハビリテーションを実施します。
- ③主治医がヘルスコープあぼし診療所の医師でない場合は、情報共有を綿密に行い連携を図ります。
- ④事業の実施にあたっては、居宅介護支援事業所その他、保険医療福祉サービスを提供する者との密接な連携を図るとともに、関係市町村とも連携を図り、総合的なサービスの提供に努めることとします。
- ⑤退院後早期に連続的で質の高いリハビリテーションを実施するために、医師等の従業者が、入院中にリハビリテーションを受けていた利用者に対し退院後のリハビリテーションを提供する際に、リハビリテーション計画を作成するに当たっては、入院中に医療機関が作成したリハビリテーション実施計画書等を入手し、内容を把握します。

6.サービス内容及び料金

(1) 当事業所では、居宅サービス計画に沿って作成した（介護予防）訪問リハビリテーション計画に基づき以下のサービスを提供します。

- ・「心身機能」「活動」「参加」などの生活機能の維持向上を図るリハビリテーション・生活行為力向上のための訓練、指導・関節拘縮の予防、訓練
- ・認知症予防の訓練、指導・嚥下訓練
- ・社会復帰への相談・福祉機器の選定相談
- ・住宅改修に関する相談

※介護保険被保険者証に記載された内容（被保険者資格、介護認定の有無及び要介護認定の有効期間）を確認させていただきます。利用者の住所変更があった場合や要介護度に変更があった場合は速やかに当事業所にお知らせください。お知らせいただけない場合は、介護保険にて請求ができないため利用者にサービス利用費用の10割請求させていただきます場合があります。

(2) 利用料金

- ①利用料金については別に定める料金表の通り
- ②利用料は負担割合証に基づいて負担していただきます
ただし、保険給付がなされない場合は全額自己負担となります。

③利用者が法定代理受領サービスを利用できないことにより償還払いとなる場合には、いったん、利用料を全額自己負担していただくこと及びサービス提供証明書を発行します。

④通常の送迎範囲以外の送迎を要する場合は、送迎費は実費いただきます。

※別に定める料金表の通り

⑤（介護予防）訪問リハビリテーションの提供開始に際し、あらかじめ、利用者又はその家族に対し、当該サービス内容及び費用に関し、事前に説明を行い、利用者の同意をいただきます。

⑥利用料金支払い方法

利用料金は1ヶ月ごとに計算し次のいずれかの方法により、翌月27日（金融機関が休業の場合は翌営業日）までにお支払いください。

- ・自動銀行引き落とし（事前に別途申し込みが必要です）
- ・事業所での現金払い

⑦領収書の発行

事業者は、利用者から利用者負担金の支払いを受けたときは、利用料とその他の利用料（個別の費用ごとに区分）について記載した領収書を発行します。なお、自動口座引き落としでの支払いの場合、翌月の請求書と共に送付します。

原則、再発行は出来ませんので大切に保管してください。

(3)利用の中止・変更について

利用予定日の前に、利用者の都合により指定（介護予防）訪問リハビリテーションサービスの利用を中止または変更することができます。この場合には、原則として、サービス実施日の前日までに事業所に申し出てください。

7.苦情相談窓口について

(1) 苦情相談窓口

◇ 姫路医療生協ヘルスコープあぼし診療所

管理者 宗實 英行

TEL 079-272-8053 FAX 079-272-8051

受付時間：月曜日～金曜日 9時～17時 土曜日9時～13時

相談方法：電話・面接・書面等

◇ 姫路市介護保険課 TEL079-221-2923

受付時間：月曜日～金曜日 8：35～17：20

◇ 兵庫県国民健康保険団体連合会 TEL 078-332-5617

受付時間：月曜日～金曜日 8：45～17：15

(2) 当事業所の苦情・相談について

当事業所は、提供したサービスに苦情がある場合、又は作成した（介護予防）指定訪問リハビリテーション計画に基づいて提供された（介護予防）訪問リハビリ

サービスに関する苦情の申し立てや相談があった場合は、管理者の責任と指示の基に速やかに対応いたします。

8.契約の終了

次のいずれかの事由が発生した場合は、この契約は終了したものとします。

- (1) 利用者が死亡した場合
- (2) 要介護認定により利用者の心身状態の自立と判別された場合
- (3) 利用者からの契約終了の意思表示がなされたとき
- (4) 事業者がやむを得ない事由により事業所を閉鎖した場合

9.利用者からの契約の解除

この契約は、契約期間中であっても、利用者の方から解除を希望する7日前までに申し出ていただければ解除することができます。ただし、利用者の健康状態の急変、急な入院などやむをえない事情がある場合は契約終了希望日の7日以内の通知でもこの契約を解約することができます。

10.事業者からの契約の解除

事業者は、利用者が以下の事項に該当する場合には本契約を解除することができます。

1.利用者又はその家族が事業者や職員に対して身体的暴力・精神的暴力・セクシュアルハラスメント等の言動を行った場合

1) 身体的暴力

身体的な力を使って危害を及ぼす行為。(職員が回避したため危害を免れたケースを含む)

例：○コップをなげつける

- 蹴られる
- 手を払いのけられる
- たたかれる
- 手をひっかく、つねる
- 首を絞める
- 唾を吐く
- 服を引きちぎられる

2) 精神的暴力

個人の尊厳や人格を言葉や態度によって傷つけたり、おとしめたりする行為。

例：○大声を発する

- サービスの状況をのぞき見する
- 怒鳴る

- 気に入っている職員以外に批判的な言動をする
- 威圧的な態度で文句を言い続ける
- 刃物を胸元からちらつかせる
- 「この程度できて当然」と理不尽なサービスを要求する
- 家族が利用者の発言をうのみにし、理不尽な要求をする
- 訪問時不在のことが多く書置きを残すと「予定通りサービスがなされていない」として、謝罪して正座するよう強く求める
- 利用料金の支払を求めたところ、手渡しせずに、お金を床に並べてそれを拾って受け取るように求められた。
- 利用料金を数か月滞納。「請求しなかった事業所にも責任がある」と支払いを拒否する
- 特定の職員にいやがらせをする
- サービス利用中に職員を含む利用者本人以外の写真や動画の撮影、録音を行う行為又はインターネット等に掲載する行為を行った場合

3) セクシュアルハラスメント

意に添わない性的誘いかけ、好意的態度の要求等、性的ないやがらせ行為。

例：○必要もなく手や腕をさわる

- 抱きしめる
- 女性のヌード写真を見せる
- 入浴介助中、あからさまに性的な話をする
- 卑猥な言動を繰り返す
- サービス提供に無関係に下半身を丸出しにして見せる
- 活動中の職員のジャージに手を入れる

(出典「厚労省の介護現場におけるハラスメント対策マニュアル」より引用)

- 2.その他契約を継続し難いほど重大な背信行為を行った場合
- 3.利用者がサービス料金の支払いを正当な理由もないまま遅延し督促したにもかかわらず支払いが行われない場合
- 4.利用者が正当な理由もなくサービスの休止をしばしばくりかえした場合
- 5.本契約の解除を行う場合は、関係事業者や保険者及び地域包括支援センター等にも報告させていただきます。

11.記録の保管

事業所は、職員・設備・備品及び会計に関する諸記録を整備し、また（介護予防）訪問リハビリテーションの提供に関する記録を整備し、その完結の日から5年間保存します。

12.緊急時における対応方法

- (1)サービス提供中に、利用者の病状に急変及び事故等、その他緊急事態が生じたときは、

速やかに家族・主治医 及び介護支援専門員等へ連絡を行う等の必要な措置を講じるものとしします。

(2)利用者の病状に急変及び事故等の時、主治医との連絡及び指示が得られなかった場合には、協力医療機関への連絡を行う等、あらかじめ確認させていただいている緊急時の対応方法に沿い適切な処置を講じるものとしします。

・ 13.非常災害業務継続計画の策定と推進

非常災害業務継続計画の策定を行い委員会を組織し、発生時において利用者に対する事業の提供を継続的に実施するための、及び非常時の体制で早期の業務再開を図れるために、従業者に当該計画を周知し必要な研修及び訓練を定期的実施し、いざ非常災害発生時に行動できる運営を行う。

・ 14.感染症の予防及びまん延防止のための対策（衛生管理等も含む）及び感染症業務継続計画の策定と推進

感染症の予防及びまん延防止のための対策（衛生管理等も含む）及び感染症業務継続計画を策定し、委員会を組織し、法定回数委員会を開催します。委員会にて感染症を未然に防止することや、感染症が発生した場合拡大しないよう可及的速やかに対応する体制を構築し、従業者に当該計画を周知し必要な研修及び訓練を定期的実施します。

・ 15.虐待防止及び身体的拘束等の適正化の推進

事業者は、利用者の人権の擁護・虐待等防止・身体的拘束等の適正化のため次の措置を講じるものとしします。

(1)1回/3ヶ月、法人で高齢者虐待防止・身体的拘束適正化検討委員会（テレビ電話装置等の活用も行う）を開催→各事業体で高齢者虐待防止・身体的拘束適正化検討委員会で周知・検討→各事業所で高齢者虐待防止・身体的拘束適正化検討委員会で周知・検討し、その結果について従業者に周知徹底を図ります。

(2)高齢者虐待防止及び身体的拘束適正化のための指針の整備

(3)従業者に対し、虐待防止及び身体的拘束等の適正化のための研修を法定数実施するとともに、新規採用時には必ず研修を実施

(4)上記措置を適切に実施するための担当者を置く

2 事業所はサービスの提供に当たっては、利用者又は他の利用者の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為を行いません。

3 利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合に身体的拘束等を行う場合は、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録し、利用者・家族に説明し同意を得ます。定期的にモニタリング

を実施し、身体的拘束等の必要性について検討を行い、適正な運営を図ります。

- 4 事業所は、サービス提供中に、当該事業所従業者又は介護者による虐待を受けたと思われる利用者を発見した場合は、速やかに、これを姫路市等に通報するものとします。

16.サービス提供時における事故発生への対応

(1) 事故防止について

事故を未然に予防するために当事業所では職員教育及び設備・環境等最大限の努力を行っています。しかし、転倒などを含む事故を完全に防げるものではありませんのでご了承ください。

(2) 対応について

状況確認の上、管理者の指示の下、迅速に対応します。

必要に応じて、事前に確認した連絡先の家族等にお知らせします。また市町村への報告等については、各市町村等の事故等発生時の報告取扱規程等に沿い対応します。

17.損害保険への加入

(1) 当事業所は損害賠償責任保険に加入しています。

(2) 当事業所からのサービス提供時において、従事者の責めに帰すべき事由にあり、利用者の生命・身体・財産に損害を及ぼした場合は、利用者に対しその損害を賠償します。ただし、事業所に故意または重大な過失がなかった場合はこの限りではありません。適用対象は、サービス遂行に起因して生じた、第三者に対する身体障害・財物損壊・人格権侵害（プライバシー侵害）とします。ただし、故意または重大な過失の場合にのみ責任を負います。

18.損害賠償責任

当事業所が、介護事業の提供を行う上で、本契約の各事項に違反し、介護保険法及び民法その他の関係法令に違反し、利用者のサービス利用に支障を生じさせ損害を与えた場合には、事業所はその損害を、速やかに賠償する義務を負います。

19.損害賠償がなされない場合

以下の各号に該当する場合に損害賠償責任の対象とならないことがあります。

- (1) 利用者が、契約締結時にその心身の状況及び病歴等の重要事項について、故意にこれを告げず、又は不実の告知を行ったことにもつぱら起因して損害が発生した場合
- (2) 利用者が、サービスの実施にあたって必要なことに関する聴取・確認に対して故意にこれを告げず、又は不実の告知を行ったことにもつぱら起因して損害が発生した場合

- (3) 利用者の急激な体調の変化等、事業所の実施したサービスを原因としない事由にもつぱら起因して損害が発生した場合
- (4) 利用者が、事業所もしくはサービス従事者の指示・依頼に反して行った行為にもつぱら起因して損害が発生した場合

20. 従業者の研修について

- (1) 管理者は、業務を実施するにあたり、従業者の資質向上のために研修の機会を設けます。
- (2) 従業者に対する技術の確認・向上のためのOJTを実施します。
- (3) 研修の実施については、入職時研修及び年2回以上は実施し、諸記録を整備します。

21. 留意事項

- (1) 利用者又は家族に対して宗教活動、政治活動、営利活動は行いません。
- (2) 当事業所では、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等を養成する学校の養成機関からの依頼を受け、現場実習の受け入れを行います。実習生が期間中に従業者との同行訪問のお願いを個別させていただくことがあります。実習生も従業者と同様に個人情報の取り扱いを適正に行うものとします。
- (3) 職員への物品や金銭等のお心づけは固くお断りしています。

22.重要事項の変更

重要事項説明書に記載された内容に変更が生じる場合は、書類を交付し、説明の上、同意を求めます。

(介護予防)訪問リハビリテーションの提供開始にあたり、利用者に対して、本書面に基づいて重要事項の説明を行いました。

説明日： 年 月 日

ヘルスコープあぼし診療所
(訪問リハビリテーション)

説明者 _____

私は本書面により事業者から重要事項の説明を受け同意いたします。

年 月 日

利用者
氏名 _____

上記代理人
氏名 _____ 続柄 () _____